

## 刊行に当たって

トコジラミ(別名南京虫)による被害は、第二次大戦前後から1960年頃にかけて都市の住宅密集地域では極めて一般的な害虫であった。戦後のDDTの普及や有機リン系殺虫剤の普及により1964年の東京オリンピック頃を境に急速に減少し、1960-70年代には日本からすっかり姿を消した。しかし2000年を少し過ぎた頃よりあちこちでトコジラミ被害を耳にするようになった。トコジラミのリサーチ(再興)である。一番初めに問題になったのは米国で、2003年頃から防除業者の間で問題になり、防除を行う機会が徐々に増加し、今では殆どの業者が防除を行っている。これらの人々の防除経験によると、

- 1 確実な探知法はなく、もっぱら目視に頼っている
- 2 1回の駆除で被害を止めることは困難で、少なくとも3回の再施工が必要である
- 3 調査を含めた作業時間はゴキブリ駆除などに比べて長い
- 4 したがってそれなりの施工価格を請求しなくてはならないが、顧客の理解を得にくい
- 5 物に付着してあちこち被害が広がるため宿泊施設では予防対策も併せて行う必要がある
- 6 一般家庭では室内に多くの衣類、本、家具などがありこれらに卵が付着している可能性もある。その対策が重要である。
- 7 適切な殺虫剤が確定していない
- 8 ホテルなどでは防除しても被害があった場合訴訟になりかねない

などこれまでの害虫防除にはない困難さがあり、米国でも当初はずいぶん失敗したようである。その後、大学や研究熱心なペストコントロール技術者による防除や生態に関する研究が進み色々なことがわかってきた。

日本では戦後の駆除経験者はいなくなり、研究機関もなくなった。当時と比べ人々の生活様式、住宅事情はかなり異なっている。日本ではまだ爆発的増加には至っていないが、予め知識、施工技術的な準備は必要である。米国のデータを中心に技術資料集としてまとめさせていただいた。後半には、これまでの先駆的な会員さんによる防除事例も紹介させていただいた。もう少し施工実績が増え、技術も確立し、日本における問題点がクリアになれば、マニュアルを刊行する予定である。とりあえずご参考になれば幸いである。

平成22年3月

(社)日本ペストコントロール協会  
副会長(技術担当) 平尾素一

# 目 次

1	トコジラミの分類と形態	1
2	起源・名称など	2
3	トコジラミの再興(Resurgence)とその原因	3
	1) 米国におけるリサージェンス	
	2) オーストラリアにおけるリサージェンス	
	3) EUにおけるリサージェンス	
	4) 日本の場合	
4	トコジラミ増加の原因—米国での場合	8
	1) 社会的・人的要因	
	2) 環境的な要因	
	3) 防除サイドから見た要因	
5	トコジラミの害	9
	1) 人への被害	
	2) 経済的な被害	
6	トコジラミの生態	11
	1) 生活史	
	2) 吸血行動	
	3) 吸血できない場合の生存期間	
	4) 交尾行動	
	5) トコジラミの移動・拡散	
7	トコジラミの調査方法	18
	1) 調査の準備	
	2) 事前聞き取り調査	
	3) 調査時の交差汚染防止	
	4) 生息の確認法	
	5) ベッドのある部屋での調査	
	6) ふとんを使用する和室での調査	
8	トコジラミの防除	25
	1) 防除が困難な理由	
	2) 殺虫剤による駆除	

3) 物理的防除手段

9 トコジラミの予防・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

- 1) ベッドメイキング時の発見方法
- 2) 汚染拡大防止のための洗濯物管理
- 3) 持ち込まれたトコジラミを日常清掃により吸い取ろう
- 4) トコジラミの好まない家具デザインの選択
- 5) 殺虫剤の予防的バリア処理
- 6) 室内への持込の予防

付：会員の皆様から寄せられたトコジラミ防除事例・・・・・・・・ 41

1. 谷口敬敏ら(2003)、富山県のリゾートホテルでみられたトコジラミの大発生とその駆除記録[ペストロジー学会誌 18(1)]
2. 谷口敬敏ら(2008)、新潟県内のリゾートホテルにおけるトコジラミの駆除事例[ペストロジー23(2)]
3. 成隆光(2008)、トコジラミ(ナンキンムシ)について[Makoto143号]
4. 村田光(2009)、トコジラミ施工報告3例、私信
5. 草野俊行(2009)、トコジラミ(南京虫)駆除事例[ペストコントロール News 福岡第13号]
6. 金田貴志ら(2009)、トコジラミ駆除に関する事例発表、私信
7. 山口弘ら(2009)、トコジラミ類防除事例、私信